

2019年1月27日 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会（第477回）

エキゾチック！ 世界宗教寺院めぐり（兵庫）

神戸で仕事をしている知人が、こう話していました。「昼食の時間に、13か国の料理を食べに行く事が出来る」と。奈良にいた私は、まことにうらやましい思いをしたものです。（「奈良にうまいものなし」と云う俗説があったので）

神戸は1868（明治元）年1月に港として国際的に開かれ、10年後には1千人を超える外国人が居住しています。（清619人、英230人、米52人、独50人、仏11、蘭26人）そして平成23年の統計では128か国4万4千人に増加しています。

それを反映して、神戸市には数多くの民族、宗教の寺院があり、今回の燦歩会は、例年の初詣の意味合いもこめ、それらの寺院を拝観して回りました。

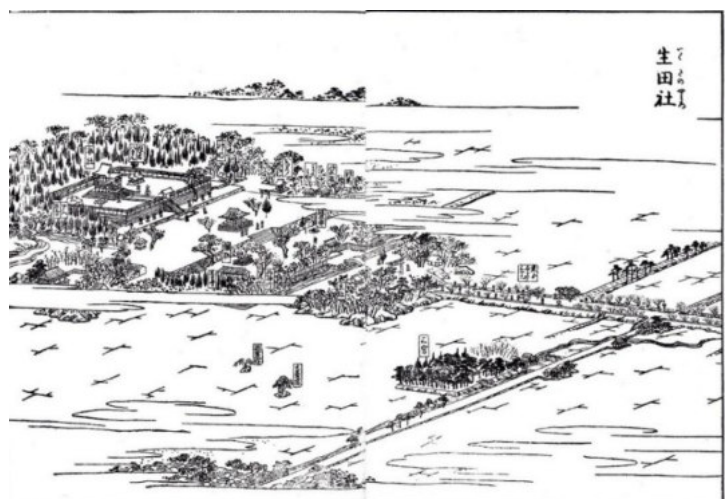
三宮の駅の混雑を避けて、生田神社（いくたじんじゃ）に10時集合、お参りします。この日神戸市の最低気温は1℃、朝の内は薄曇りで寒かったのですが、昼頃には日差しも出て、暖かくなりました。参加は25名（男性17名、女性8名）でした。



古来、生田の神様に仕えてきた人々「神戸（かんべ）」が神戸（こうべ）の地名の由来になったとか。

18世紀末に摂津名所図会に描かれた生田神社は、田畑に囲まれていて、今日の繁華さからは想像もできないのどかさですね。

海辺の鳥居から、8町（およそ900m）参道が一直線に伸び、そこに広大な神域が広がっています。



拝殿の前には、受験のシーズンとあって、合格を祈願する若い方の行列が出来ていました。拝殿は、平成7（1995）年阪神淡路大震災で倒壊し、1年半後に再建されたそうです。この日巡った宗教寺院の多くは震災で様々な被害を受け、それぞれの歴史の大きな節目となっている事が感じられました。

生田神社から山手の方に坂道を登り、大きく左回りに市内を燦歩します。

カトリック神戸中央教会



1868年の開港後間もなく、カトリックの宣教師が神戸を訪れ布教を始めます。そして2年後には海岸近くの外国人居留地に教会堂が建立され、1923年に中央区中山手通のこの地に移転します。大震災後2004年に、中央区の3つの教会（灘、中山手、下山手）を統合して、建て直されたのがこの教会堂です。

石壁の狭間、縦長の窓にステンドグラスがはめ込まれています。

外からの光を通して見るとさぞかし荘厳な事でしょう。ちょうど日曜朝の礼拝の最中でした。

一宮神社

生田神社には多くの末社があり、本社を囲むように、一宮（いちのみや）から八宮（はちのみや）まで鎮座しています。港神戸の守護神として、また厄除けを願って、この八社を巡る人々が少なくありません。

燦歩会では9年前平成22年の1月に、一宮から八宮まで、初詣でとして参拝しています。



神戸ハリストス正教会

住宅街の間に静かにたたずむロシア正教の教会です。

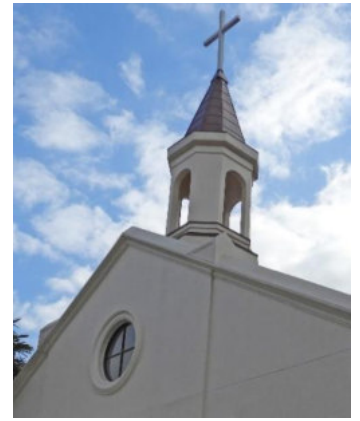
神戸では1873年頃から、ロシア正教の宣教が始まり、ロシア革命の亡命者を多く受け入れて来ました。

この教会堂は、第二次大戦の後1952年に、チョコレートで有名なモロゾフの尽力もあって建立されたのだそうです。



神戸バプテスト教会

キリスト教プロテスタントのバプテスト派の教会です。バプテスト教会の伝道は、神戸では1950年頃に始まり、この教会堂は52年3月に、アメリカ人建築家の設計で建てられました。アメリカ南部の綿花地帯のコロニアル様式を取り入れているという事で、そう言えば、いかにも映画にでも出て来そうな教会堂ですね。大震災で礼拝堂は傷つきましたが倒壊は免れ、補修工事で以前の姿を保っているそうです。



ジャイナ教寺院

主にインドで信仰されているジャイナ教。インドの人々は、神戸では綿製品や真珠の貿易を生業として、およそ1千人が暮らしているそうです。現在の建物は、インド人コミュニティの力で、1985年に建立されました。インドから取り寄せた大理石を使った白亜の寺院です。日本人の建築家がインドに滞在して、ジャイナ教建築を習得して帰り、建てたのだそうです。



内部を拝観する事が出来ました。上階に礼拝の部屋があって、石造りの祭壇に神像が祀られ、数人の信者の方が、香の薫る中、祭壇を巡りながら、祈りを捧げていました。

関西ユダヤ教団（神戸シナゴーク）

ユダヤ教の会堂です。1970年に建立され、大震災で屋根や壁が損傷しましたが、世界中からの支援を受けて、復旧されたという事です。今、祭りの時には、200人からの参拝があるそうです。



神戸ムスリムモスク

1935年に完成した、日本に現存する最も古いイスラム教寺院です。

当時の神戸市長は、「国際都市神戸にとってまことにふさわしく、神戸をして日本のメッカたらしめるものである」と祝辞を寄せています。

設計したのは、宗教建築や学校建築を多く手掛けたチェコ人のヤン・ヨセフ・スワガー。

施工は竹中工務店。大変頑丈な建物で、第2次大戦中の空襲にも耐えた写真が残されています。



礼拝所を拝観して、お話を伺う事が出来ました。幾何学模様の装飾がきらびやかですが、教義に従って、神や天使や預言者・聖者などの偶像はありません。写真右手の窪みがメッカの方角、礼拝の方向を示しているのだそうです。その前に小ぶりの絨毯が敷かれた所が、礼拝の場所ですね。当初の信者は、インド人とトルコ系タタール人が中心でしたが、今は東南アジア、アフリカ、中東と多様化、留学生の増加も目立っているそうです。

関帝廟

朱塗りの門と、屋根に2頭の青い竜が向かい合う中国風の建築。

関帝廟（かんていびょう）は、中国の三国時代、蜀の劉備玄徳に仕えた武将関羽（生年？～219年）を祀る道教の寺院です。

（孔子を祀る「文廟」に対して「武廟」と呼ばれます）

忠義・誠実の人で、庶民の願いをかなえてくれるご利益のある神様として、広く信仰を集めています。

この廟は1948（昭和23）年に華僑の人々の寄進によって建立されました。日本人の棟梁が、試行錯誤の末に建てたので、他に例を見ない「中日折衷」だそうです。

ここまで拝観して歩いて、およそ1時間半。多くが一般の住宅の間に点在して、地域に溶け込んでいる様子が、良く分かりました。

「多様な宗教とコミュニティーが平和的に共存」と云われる所以でしょう。



補 足

1、本願寺神戸別院

時間の都合で回れなかったのですが、浄土真宗西本願寺直属の本願寺神戸別院です。「モダン寺」の名で親しまれています。尖塔や壁面彫刻などインドの仏教寺院をモデルにして、ステンドグラスまである所が、モダン寺の謂れでしょう。



2、カフェ「フロイドリーブ」

1977（昭和52）年に放送された朝ドラ「風見鶏」をご記憶の方も多いと思います。そのモデルとなったドイツ人ハインリヒ・フロイドリーブが始めたパン屋さんは、今は三代目の世代。大震災で元来の店舗で営業が出来なくなった時に、三代目夫妻が結婚式を挙げたゆかりの元神戸ユニオン教会のこの建物に入る事になったのです。1999年の事です。建物は関西を拠点に、多くの洋風建築を設計したウィリアム・メレル・ヴォーリズの手になるもので、いま登録有形文化財に登録されています。内部はリズムカルな梁の構造と白壁の美しい、おしゃれなカフェに変身していました。この日の我が家への土産は、クルミ・レーズンの入ったパンとハート形のパイにしました。



3、三宮（さんのみや）

生田神社の末社の一つ「三宮」神社は、今は神戸随一の繁華街の中にポツンと佇んでいます。「サンノミヤ」と云えば、今は駅と街の呼び名ですね。複雑なのは駅名で、JR・阪神電鉄・阪急電鉄・神戸市営地下鉄・ポートライナーが乗り入れる三宮駅を中心に、JRの駅名は三ノ宮、阪神と阪急の駅名は神戸三宮です。



* * *

ご 案 内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、毎月第4日曜日に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。（事前に予約が必要な場合もあります）

今後の予定 2月 日野ひな祭り紀行と町並み散策（滋賀）

3月 光秀ゆかりの福知山城と御霊神社を訪ねる（青春18切符を利用 京都）

* 4月以降の予定は2月上旬に決まります。

参加ご希望の方は、山村恵一さんにご連絡下さい。（電話 0743-20-4159）

一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

（写真・文 生島おじま 幸弥）